



▲3月22日、出発式で隊員と地元住民らが記念撮影

konan history 地域と共に半世紀

陸上自衛隊第14施設中隊が徳島県阿南市へ移駐しました



県民に愛された郷土部隊

昭和37年に香我美町岸本に駐在し、高知県の警備や災害派遣、広報など、民生協力（隊員約100人）が、3月末をもって徳島県阿南市に移駐しました。約半世紀にわたり、地域住民と一体となって地域振興や災害救助活動など、市民生活の安定に大きく貢献してきました。また、地域に密着した活動を通して、周辺住民はもとより広く県民に愛され、信頼されてきました。

すべての活動は被災者のために

第14施設中隊は、ダンプカーやトラックなどの大型機材を使って、災害時の人命救助や道路の復旧などを行う専門の部隊として、常に災害と隣り合わせの高知県にとって果たしてきた役割は大きく、なくてはならない存在でした。

また記憶に新しい活動として、第50普通科連隊とともに東日本大震災の被災地、宮城県石巻市・女川町で行方不明者の捜索のため、重機によるがれきの除去作業や、補給幹線道路確保のための道路啓開等を行いました。「すべての活動は被災者のために」この思いを胸に、懸命の捜索活動が続けられ、災害復旧に尽力しました。

50年を振り返って

地域と共に歩んだ50年を振り返り、地域の代表者として約20年間岸本地区まちづくり協議会会長を務められた中村豊さんと、平成22年8月より第14施設中隊を統率してきた中隊長の津田充寿2等陸佐に、移駐にあたってのコメントをいただきましたので紹介します。



地域と共に歩んだ半世紀

第24代 第14施設中隊長 津田 充寿

この度我々第14施設中隊は、3月末をもって約半世紀にわたり駐屯しました香南市香我美町岸本地区の高知駐屯地第2営舎地区から徳島県阿南市へ移駐しました。約50年の長きにわたり慣れ親しんだの地を離れることは、隊員一同寂しさを感ずるところです。

施設科部隊としての活動

我々は、第4施設団第325地区施設隊として昭和37年にこの地にやってきました。昭和56年には第2混成団施設隊、平成18年には現在の第14施設中隊へと改編を経ました。

この間、油圧ショベルやドーザをはじめとした重機材や、ボートなどの渡河機材を装備した施設科部隊として、高知県内各地の風水害災害をはじめとした各種災害派遣への出動や学校等における敷地造成、山間地における道路工事などの部外工事に参加させていただきました。この香南市内においては、行進訓練、渡河訓練などの訓練をさせていただきました。その際も、地域の皆さまのご理解、ご協力、ご声援を賜りまして、円滑な隊務の運営、部隊の精進に努めることができました。

地域行事で交流を深める

また、地域の方々との交流では、香我美町の納涼祭を現高知駐屯地第2営舎地区において実施し、多くの方々には駐屯地を訪れていただきました。よき祭りにおいては、地域の方々とともに一緒にチームを作り、参加しました。その他にも地域の運動会や駅伝大会などに参加し、地域の皆さまと多くの交流を深めることができました。

50年の「絆」を胸に...

土佐の気候、風土、そして地域の皆さまに育てられた施設中隊は新たな任務の地へと今更立っていきます。我々は、徳島県へと移駐しますが、50年の間に香南市の皆さまと築き上げた「絆」は、決して切れるものではないと思っています。高知で育った部隊としての誇りを胸に、新たな任務の地である徳島県においてより一層の精進化に向けて精進していきます。また、香南市同様徳島県の地域の皆さまから理解、信頼される部隊になれるよう努力を続けていきたいと思います。

我々の移駐後におきましても、今までと変わらず陸上自衛隊に対するご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。移駐にあたってのあいさついたします。

昭和37年 (1962)	第325地区施設隊 高知分屯地へ移駐
昭和41年 (1966)	高知駐屯地創立
昭和45年 (1970)	野市町で山林火災が発生し、災害派遣
昭和46年 (1971)	香我美町上分の「天神の大杉」が炎上し、出動
昭和48年 (1973)	赤岡町一本松で近傍火災が発生し、災害派遣
昭和49年 (1974)	夜須町で山林火災が炎上し、災害派遣
昭和50年 (1975)	夜須町で風水害が発生し、災害派遣
昭和51年 (1976)	第1回香我美町納涼祭
昭和56年 (1981)	夜須町で人命救助
平成18年 (2006)	第2混成団施設隊に改編
平成24年 (2012)	第14旅団改編により、第14施設中隊に改編 徳島県阿南市へ移駐

50年の主な歩み

自衛隊移駐によせて



前岸本地区まちづくり協議会長 中村 豊 (84歳)

心強く頼もしい存在

自衛隊が駐屯する前は、民家もなく桑畑が辺り一面に広がり、夜は真っ暗で大変怖かったことを覚えています。また、海側は今と違って堤防もなく、津波の心配をしていましたので、自衛隊誘致が決まった時は、大変心強く、頼もしい限りでした。人口が増え、まちが活性化され、地域全体に活気が溢れていました。

交流で地域が一つに

地域の行事にも積極的に参加していたとき、地域に溶け込んでくれました。公民館を交流の場として、演芸会や餅つきを行ったり、高架下の草刈りや海岸の清掃などの環境美化にも努めていただきました。運動会や駅伝大会では、日ごろの訓練で培った力がいかんなく発揮され、勝った時の喜び



1 昭和37年移駐した際、市中を行進 2 隊庁舎 3 香我美町納涼祭でのよきこい鳴子踊り 4 東日本大震災でがれき処理を行う油圧ショベル 5 香我美町民運動会で岸本チームとして大縄跳びに参加 6 津田中隊長を先頭に隊列 7 3月22日の出発式で防衛協力団体より花束贈呈